

まちづくりの功績に感謝を込めて  
平成27年度功労者・善行者表彰式

文化の日の11月3日、平成27年度津別町功労者・善行者表彰式が、中央公民館において執り行われました。

今年度は、功労者（自治、消防）表彰を6氏、善行者表彰を1法人が受賞。佐藤多一町長から受賞者一人ひとりに表彰状と記念メダルが贈られ、町の発展や振興に多大な貢献をされた方々の功績を称えました。

受賞者を代表して福井全雅さん（自治功労者）が、「この度の受賞は町民の皆さまのおかげであり、身に余る光榮です。今後も地域のために貢献できればと思います」と謝辞を述べられました。

受賞者の皆さま、おめでとうございます。



▲前列左から福井全雅さん、佐藤町長、日下太郎さん、後列左から佐藤正敏さん、大寺隆さん、丸玉産業株式会社津別工場長・松岡道雄さん、中野裕之さん、池森英樹さん

廃油リサイクルから森づくりへ  
町にECCOプロジェクトの助成金

公益財団法人北海道環境財団から町に、町有林の植栽事業費として40万円が助成され、10月29日、関係者が役場を訪れ目録の贈呈が行われました。

本プロジェクトは、同財団と産業廃棄物処理業の環境開発工業株式会社（北広島市）が進める『森とアースへのECCOプロジェクト』と称し、環境開発工業がプロジェクトに賛同を得た自動車整備工場などの企業から回収した廃油1ℓ当たり1円を北海道環境財団に寄附し、財団から森林整備に力を入れている道内の自治体に助成金が贈られるものです。

賛同企業は、間接的に森づくりに関わることで、環境意識の向上などが期待されます。また、財団より助成先自治体の地場産品が贈られます。



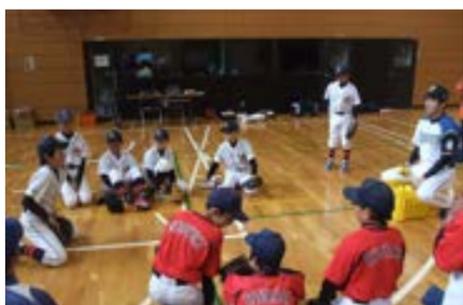
▲左から佐藤町長、北海道環境財団・柴田真年専務理事、環境開発工業・長谷川徹代表取締役会長

元プロ野球選手が指導  
ファイターズ「津別町少年野球教室」

10月25日、北海道日本ハムファイターズベースボールアカデミー「津別町少年野球教室」が、農業者トレーニングセンターで開催されました。

町内外の野球少年団と津別中学校野球部の計47名の参加者が、元プロ野球選手でアカデミー講師の牧谷宇佐美さんと村上真哉さんから熱のこもった指導を受けました。

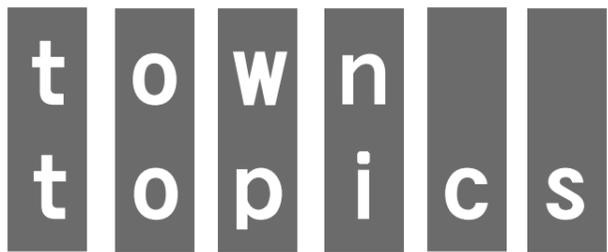
2名の講師からは非常に細かい指導をいただき、牧谷さんからは「プロと少年野球は違う。プロの良い部分には真似せず、



どんなプレーも全力で」とのアドバイスを受けていました。

シーズン終盤での野球教室開催ではありましたが、是非来年の活躍につなげてほしいものです。

まちなわだい



異なる文化や生活を体験  
ニュージールランド研修報告

津別町青少年海外研修派遣事業でニュージールランドに派遣された、津別高校の生徒5名（いずれも2年生）が帰町し、11月4日、町長らに研修修了の報告を行いました。

10月16日から28日まで、ホームステイをしながら高校の授業を受けたり、文化施設を訪れるなどの研修に臨んだ生徒たちは、「英語が分からなくてコミュニケーションに苦労した」、「ボランティア活動の勉強ができた」、「スーパードが食品の種類が豊富だった」、「言葉が通じなくてもホストファミリーが優しくしてくれました」などと、それぞれ印象に残ったエピソードを話しました。



12月24日には、津別高校体育館で、全校生徒や町民を対象とした報告会も開かれます。

日ごろの練習成果を舞台上披露  
津別町老人クラブ連合会演芸交流会開催

津別町老人クラブ連合会の演芸交流会が、11月12日、中央公民館で開催されました。

主催者挨拶、来賓挨拶に続いて、永く老人クラブの活動に尽力されている土屋幸子さん、伊藤政義さん（ともに友楽園すこやかクラブ）への功労者表彰が行われ、労をねぎらいました。

舞台発表では、延べ36名がカラオケ歌唱や舞踊を披露。自慢の歌声や息の合った踊りに、観客からは惜しみない拍手が送られていました。



入院患者を素早く救出  
津別病院で避難訓練

秋の火災予防運動期間中の10月20日、津別病院で避難訓練が行われました。

ごみ置き場から出火したという想定で行われた訓練では、職員が入院患者に見立てた担架や車椅子を次々と運び出し、安全な場所まで避難誘導しました。

参加者はみな真剣な表情でてきぱきと行動し、概ね想定時間内で訓練を終了。津別消防署の江草署長からも合格点の講評がありました。



地域おこし協力隊の  
「まちなわだい」日記

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。



檀山 知弘  
11月で協力隊を引退しました。みなさん、ありがとうございました。これからは一町民です。

津別の美しい森になら、森の精霊なんでものが本場に棲んでいてもおかしくない。そんなことを考えて、シゲチャンネルの大河重成さんとやってみたいイベントが「相生原人祭」です。相生原人は、森の精霊が現世に姿を求めらるならこんなカタチ。というものを思い浮かべて、それを森の素材でかたどり、自分の身に着てみる、というもの。ササや木の皮などで作った原人たちが蒼穹と相生の森を背景に歩きまわる姿は、まるで本物の森の精霊たち。見ているとどこか異次元に連れ出されたみたい。こんなクールなお祭り、日本にただ一つです。



こんな風に、津別が本来持っている資源をアートの表現し、そして生業にしていける。そんな活動が相生で生まれます。新しい津別の魅力を育てる活動です。みなさんも注目して、そしてぜひ応援してください！